

第十二節 昭和九年

昭和九年度東京美術學校年報

甲 款

概況

昭和九年三月二十九日各本科並ニ圖書師範科入學許可者ノ氏名ヲ本校内ニ揭示發表シ四月十四日官報ニ掲載セリ

同年四月十一日入學式ヲ行フ

同年五月十五日ヨリ十七日ニ至ル三日間各科豫科百二十一名圖書師範科一年十五名千葉県習志野陸軍廠舎ニ行軍シ夜營演習ヲ実施セリ

同年五月三十日ヨリ六月一日ニ至ル三日間各本科一年百二十九名圖書師範科二年十五名千葉廠下志津陸軍廠舎ニ行軍シ夜營演習ヲ実施セリ

同年七月三日ヨリ六日ニ至ル三日間各本科二年九十四名圖書師範科十八名富士裾野陸軍廠舎ニ行軍シ夜營演習ヲ実施セリ

同年十月四日本校設置記念日ナリシモ都合ニヨリ繰下ゲ十一月四日記念式ヲ行フ

同年十一月十九日午前九時ヨリ本校運動場ニ於テ各本科四百六十二名圖書師範科五十名ニ對シ教練査閲実施セラル

同年一月八日午前十時ヨリ職員生徒一同講堂ニ參集シ新年授業始式ヲ舉行セリ

同年三月二十五日午前十時ヨリ本校第四十四回卒業式ヲ行ヒ例ニ依リ各科卒業製作品並ニ圖書師範科成績品ヲ別室ニ陳列シ來賓ノ觀覽ニ供シ翌二十六、二十七日ノ兩日間廣ク本校關係者及有志等ニ觀覽セシメタリ

規程

本年度内ニアリテハ創定又ハ改正セラレタルモノナシ

設備

圖書師範科作業科設備費〔昭和七年度以降年報ト同文につき省略〕

職員

本年度ニ於ケル職員ノ數ハ學校長一人教授二十六人生徒主事一人助教授十六人書記五人生徒主事補一人囑託講師十六人同教員十七人同醫師一人副科囑託三人教務雇三人事務雇十二人ニシテ前年度ニ比スレバ囑託講師ニ二人ヲ増シ其他増減ナシ

生徒

全体ニ於ケル生徒ノ學力操行健康ノ狀態ハ前年度ニ比較シテ大差アルヲ認メズ 新入學生徒ニアリテモ大要亦同様ニシテ特ニ標學スベキ事情ナシトス
本年度新入學者ハ本科百二十五人圖書師範科十五人研究科生三十四人ニシテ其入學者ノ學力程度ハ本科生ニアリテハ官公立中學校卒業者六十九人同四年修了者三人私立中學校卒業者二十二人同四年修了者三人工業學校卒業者八人工藝學校卒業者三人美術工藝學校卒業者二人園藝學校卒業者一人商業學校卒業者二人高等學校卒業者二人同中途退學者一人高等普通學校卒業者三人同四年終了者一人私立大學專門部在學中ノ者三人同豫科在學中ノ者一人帝國美

術學校在學中ノ者一人ナリ 圖書師範科ニアリテハ官公立中學校卒業者十人私立中學校卒業者一人師範學校卒業者四人ナリ 研究生三十四人ハ本校卒業者ノ入學シタルモノトス

新入學生徒ノ年齡ハ本科生ニアリテハ最高二十五年五ヶ月最低十七年四ヶ月ニシテ平均二十一年三ヶ月ナリ 圖書師範科生ハ最高二十五年最低十九年五ヶ月ニシテ平均二十一年三ヶ月ナリ 研究生ハ最高四十二年一ヶ月最低二十四年一ヶ月ニシテ平均二十五年一ヶ月ナリ

生徒ノ入退學ニ就テハ本年度入學者本科百二十五人圖書師範科十五人研究科三十四人ニシテ再入學者ナシ 退學者ハ病氣退學三人家事係累退學二十六人除名處分ノモノ十人死亡四人研究生在學資格消滅十二人ニシテ放校處分ニヨルモノ及ビ轉科ナシ 之ヲ前年度ニ比較スレバ入學者ハ本科ニ二人再入學者ニ三人ヲ減ジタルモ研究科生ニ七人ヲ増セリ 退學者ニアリテハ家事係累退學ニ三人ヲ減ジタルモ病氣退學ニ二人除名處分ニ一人死亡ニ二人研究生在學資格消滅ニ七人ヲ増セリ

生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度末ニ比スレバ彫刻科塑造部ニ七人工藝科圖案部ニ三人同彫金部ニ一人特別學生ニ四人ヲ増シタルモ油畫科ニ八人彫刻科木彫部ニ四人建築科ニ二人人工藝科鍍金部ニ二人同鑄金部ニ一人同漆工部ニ一人圖書師範科ニ六人選科生ニ九人研究生ニ一人ヲ減シ日本畫科ニハ増減ナシ 之ヲ綜合シテ全体ノ差引ノ結果ハ十九人ノ減少ヲ示セリ

右各科中特別學生ノ増加シタルハ前年度募入セザルニ本年度募入シタルガ為ニシテ彫刻科塑造部工藝科圖案部同彫金部ノ増シタル

ハ新入學者ニ比シ卒業者ノ少カリシニ因ル 圖書師範科生ノ減少ハ募入人員ヲ減ジタルガ為ナルモ油畫科、彫刻科木彫部建築科工藝科鍍金部同鑄金部同漆工部及研究生ノ減少ハ退學者ノ多キニ起因シ選科生ノ減少ハ全然募入セザルニ基ケリ

本年度ノ卒業生ハ本科百十二人選科九人特別學生二人圖書師範科二十人計百四十三人ニシテ前年度ニ同ジ

圖書師範科生徒ニハ前年度ニ於ケルト同一方法ニヨリ學術又ハ技藝ノ優秀ナルモノニ等差ヲ付シテ獎勵金ヲ給與セリ 即チ昭和九年四月十三日同年十一月七日同年二月二十二日ノ三回ニ同科生徒ノ競技會ヲ催シ其成績ヲ考查シテ優秀ナルモノニ獎勵金ヲ付與セリ

昭和十年三月末卒業スベキ各本科選科並ニ圖書師範科生徒百二十五名ヲ二班ニ分チ本年度ノ初四月十八日ヨリ五月二日迄十五日間教授二名助教教授三名講師二名書記一名各班ニ分レ之ガ引率又ハ付添ニ任シ京都奈良滋賀ノ一府二縣ニ出張シ著名ナル神社佛閣等ヲ歴觀シテ美術上ノ实地研究ヲナシタリ

本校ニ於テハ生徒皆通學ナルヲ以テ宿舍ニ関シテ申報スベキ事項ナシ

將來施設上重要ト認ムル件

大講堂新設ノ件〔昭和四年度以降報告と〕
〔ほぼ同文につき省略。〕

圖書師範科ノ修業年限ヲ四年ニ延長スルノ件〔昭和七年度以降報告と〕
〔と文章が異なる。〕

本校圖書師範科ハ専ラ圖書手工習字ノ中等教員ヲ養成スルコトヲ目的トシタルモ近年中等教育制度ハ時勢ニ鑑ミ師範學校、中學校、高等女學校ノ全般ニ亘リテ著シキ改正ヲ加ヘラレ殊ニ中學校

ノ如キハ甲種乙種ノ別ヲ設ケ圖畫科ノ配當時數ニ著シキ變更ヲ見タルノミナラズ新ニ作業科ヲ増設セラル、ニ至レリ 地方ニ於テハ此ニ伴ヒ中等學校ノ學級整理廢合等ノ行ハル、アリ 且又學校經濟ノ逼迫ニヨリ圖畫手工教員ヲシテ他ノ學科日ヲモ受持タシメントスル傾向漸ク顯著ナルニ至レリ 我師範科卒業者ニツイテ之ヲ見ルモ単ニ圖畫若クハ手工ノミヲ担当セルモノハ極メテ僅少ニシテ外ニ工作園藝習字等教科目ヲ兼担スルモノ七、八割ヲ占ムル有様ナリ 甚ダシキニ至リテハ國語、漢文、英語等専門以外ノ學科目ヲ分担セルモノサヘ尠カラズ 情勢ノ變化此ノ如クナルヲ以テ本校師範科ニ於テモ亦教科目ノ内容ニ改善ヲ施シ以テ時勢ノ要求ニ應ゼザルベカラザル時期ニ直面セルコトヲ痛感セザルヲ得ズ 此ノ見地ヨリシテ現在ノ修業年限三ヶ年ヲ一ヶ年延長シテ四ヶ年ニ改メ以テ圖畫手工習字ノ外ニ作業科ヲモ課シ時勢ノ要求ニ應セントス

更ニ思フニ教育者トシテ最モ重ンズベキハ人格ノ養成ニアリ 如何ニ學術技藝ニ秀ズルモ人格ニ於テ缺クル所アラバ教育者トシテ其ノ資格ノ半ヲ失フニ至ルコト論ヲ俟タズ 故ニ本校ニ於テハ思フ如クニ致シ美術ノ研究技能ノ習練ト相俟チテ特ニ人格ノ養成ニ力ヲ盡シツ、アリ 幸ニシテ年限ノ延長ヲ見ルニ至ラバ更ニ必要ナル學科目ヲ加ヘ課シテ中等學校ニ於ケル修身教育ノ担当者タリ得ル様教育スルコトヲ得ベシ 速ニ實現セラレシコトヲ希望ス

生徒實驗ノ資ニ供スルタメ諸所ヨリ依頼ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノ、中重ナルモノヲ學グレバ左ノ如シ

雜件

依頼製作一覽

品目	數量	受託年度	竣工年度	依頼者
陶像	壹基	昭和九年度	昭和九年度	馬 上 孝太郎
參列委員徽章	參百個	同	同	日本赤十字社々々
古式大鍔附屬武器	壹式	同	同	中學校長協會代表者
メタル金型	壹個	同	同	日本學術協會副會長
銀製記念錢	貳百個	同	同	柴田 桂 太
ホンホンエエー	四百個	同	同	平 尾 贊 平
ネクタイピン	參百個	同	同	日本赤十字社々々
優賞	桶壹個	同	同	李王職事務官 健太郎
花盛器	貳個	同	同	秩父宮附屬事務官 利男
ブロンズメタル	七個	同	同	農林省會計課會長
奧陸伯銅像修理	壹基	同	同	日本學術協會副會長
噴水塔	貳個	同	同	柴田 桂 太
花盛器	貳個	同	同	外務省外務次官
六曲屏風	壹雙	同	同	鐵道局長技師 次官
				農林省會計課 長
				東京市長 虎太郎

『校友会會報』記事抜粋

學校記事〔二。S・九・一〇・二〇〕
職員辭令

昭和九年五月二十一日

東京美術學校雇ヲ命ス

同年六月十五日

文庫課圖書掛兼標本掛ヲ命ス

前川 春二

依願解雇

前川 春二